アタナセ・セムフング元駐日ルワンダ大使との再会（小峯茂嗣ＡＲＣ事務局長）

●ARC と駐日ルワンダ大使館

1994 年のジェノサイド終結後の発足したルワンダ新政府から、新たに赴任したのがゼファ・ムタングハ大使です。しかし政権がまるまる入れ替わったルワンダは在外公館を維持することも厳しい状況でした。そこで当時の ARC 委員長の首藤信彦・東海大学教授は、東京のルワンダ大使館を支えようと考え、大使館スタッフとして大学生ボランティアを派遣するというアイデアを考えました。このことは国内外の新聞でも取り上げられました。

その後も首藤委員長を中心に、ルワンダ大使館との協力が始まり、1996 年のビジムング大統領（当時）来日、1997 年のカガメ副大統領（当時。現大統領）の来日の際は大使館と協力してシンポジウムやレセプションを開催しました。

（写真左）左からムタングハ大使、首藤委員長、ビジムング大統領。大統領来日時の記念撮影。（1996 年）
（写真中）ビジムング大統領来日レセプション開催に協力。（1996 年）
（写真右）カガメ副大統領来日レセプションに協力。左は小峯事務局長。（1997 年）

1999 年にムタングハ大使が離任した後、新たに着任したのがアタナセ・セムフング大使です。しかしセムフング大使が日本に赴任していた期間は 1999 年から 2000 年の一年少しでした。それはルワンダ政府が財政難で大使館を閉鎖することになったからです。

●アタナセ･セムフング大使について

セムフング大使は、1994 年のジェノサイド以前は運送会社を経営するビジネスマンでした。家族と首都キガリに暮らしていました。1994 年 4 月 6 日、ハビャリマナ大統領（当時）の乗った大統領専用機が撃墜され、死亡しました。セムフング大使は「これはたいへんなことになる」と考え、家族を連れて近隣の学校に避難することにしました。その直後に、旧政府軍や民兵集団が殺人や略奪を行いました。ルワンダのジェノサイドです。その混乱の中で彼の家は破壊され、家財道具や家具はすべて奪われたそうです。その後、学校からキガリの中心部にあるセント・ファミーユ教会に避難しました。その翌日、それまでいた学校も民兵たちに襲撃され、破壊されました。教会では 1400 人ほどが避難していたそうで、そこで 2 か月ほど暮らしていました。反乱軍のルワンダ愛国戦線（RPF、現在の政権与党）の兵士が、教会を民兵集団の襲撃から警護してくれたそうです。

ジェノサイドを実行した旧政府や民兵集団は RPF によって駆逐され、RPF 中心の新政府が発足しました。セムフング大使はジェノサイド以前から野党の社会民主党（PSD）の一員でした。与野党の権力分有によって、当時のブタレ県知事のポストは PSD に割り当てられていたのですが、その知事が新政府発足後の混乱期に暗殺されてしまうという事件が起きました。そして空席になった県知事のポストに、セムフング大使が選任されました。もともとはビジネスマンで政治家ではなかったため、辞退しようとしたそうですが、断れなかったため、1995 年から 99 年までブタレ県知事の任を務めました。ブタレ県はルワンダ南部の都市で、ルワンダの南に接するブルンジからの帰還難民の再定住に尽力されたとのことです。

そして県知事の任期を終えたのち、1999 年に駐日大使として日本に赴任することになりました。

セムフング大使も公務で多忙の中、ARC のスタッフやボランティアとも親しく交流を続けてくれていました。ARC が横浜で企画した「ルワンダのバナナリーフカード展」などの市民交流のイベントにも顔を出してくれました。しかし間もなく財政上の理由で、ルワンダ本国から駐日大使館の閉鎖の命令が届きました。大使は、当時 ARC 委員長だった首藤教授に、なんとか閉鎖を撤回する方法はないか相談されたそうです。私もそのための資料作りに携わりました。しかし最終的には閉鎖の撤回はならず、セムフング大使とご家族は 2000 年に日本を離れることとなりました。

のちに駐日大使館は再開しました。

「バナナリーフカード展」でのセムフング大使と小峯茂嗣 ARC 事務局長。

駐日ルワンダ大使館閉鎖の日に。(2000 年 9 月)

●セムフング大使との 20 年ぶりの再会

大使はルワンダに帰国後、国会議員として公務に就いておられました。現在は引退して、奥様とお二人で、キガリで暮らしていらっしゃいます。ルワンダに戻られた大使との交流は少なくなりましたが、最近になって大使とは Facebook を介して連絡を取れるようになりました。

私は2019年9月に立教大学の学生たちをルワンダでの実習に引率することになり、その際にセムフング大使のご自宅に学生ともども招待していただきました。この日は息子さん、娘さん、お孫さんも集まってくれました。息子さん、娘さんは日本にいた時は小学生だったそうですが、20 年たった今も、日本語の単語をいくつか覚えていて話してくれました。大使は私を「日本の友だち」と呼んでくれて、学生ともども歓迎していただきました。嬉しい限りです。

その時に、なんと 20 年前の大使館閉鎖問題が起きた時に私が作った資料を、ARC の当時の会報とともに大使は大切に保管してくれていたのです！これには驚きました。大使は「日本の人たちの親切を忘れてはいないよ」と話してくれました。

人と人のつながり・・・（小峯茂嗣ARC事務局長）

実はルワンダの人たちは日本人が思っている以上に日本のことをよく知っています。広島・長崎の原爆の話しはもちろん、東日本大震災と原発事故のこと、最近では外国人就労の門戸拡大などについても知っている人がいました。そして出会った日本人のこともよく覚えていてくれています。現地パートナー団体のスタッフもよく「ミホ(元ルワンダ駐在員で現在は英国大学院教授)は元気か？」、「マユミ(在学中にルワンダでインターンをしていた大学生)はどうしている？」など、10年以上前に一緒に活動していた ARC の日本人スタッフのことを話してくれます。そして出会った人たちへの感謝と歓迎の気持ちをずっと忘れないでいてくれます。今回、セムフング大使と連絡が取れたところ、「ぜひ我が家に来てくれ！」と言ってくれて、ご家族も集めてくれて、私の学生ともども歓待してくれました。私も学生も恐縮するばかりでしたが、大使もご家族も「いいんだ、いいんだ。これがルワンダの文化なんだ！」と言ってくださいました。最近では日本は「お・も・て・な・し」を標榜しているようですが、むしろ日本は人間関係がドライになったのか、遠慮深いからなのか分かりませんが、実際にはどんなもんでしょう？？？

アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-6-1 四谷サンハイツ 511 号室　Tel./FAX: 03-3351-0892

ホームページ http://www.arc-japan.org